

府中かんきょう市民の会

NPO法人 府中かんきょう市民の会会報
 2017年 夏号 7月12日発行 通巻65号
 発行人 梅沢 みどり (府中市紅葉丘)
 TEL 042-351-0689
 編集人 葛西 利武

第7回わき水まつり 講演会

都市に架かる 緑の橋

府中崖線の 存在意義を考える

今年で7回目となる「西府わき水まつり」のパート1として、6月25日に西府文化センターで講演会を開催致しました。今回のテーマは「都市に架かる緑の橋」、サブタイトルを～府中崖線の存在意義を考える～と題して行われました。

講師は、郷土の森博物館の学芸員である中村武史氏にお願い致しました。中村氏は永年郷土の森博物館で学芸員をつとめながら、館内の生態系の調査を続けられており、特に野鳥の専門家としても知られています。

今回は、当会(NPO法人府中かんきょう市民の会)が取り組んでいる「西府崖線保全活動」に関するテーマに沿った内容でお話をいただきました。



中村講師に質問する参加者の若い女性



約2時間半にも及ぶ熱弁を聴く
中村講師と聴き入る参加者

府中崖線は、立川段丘と多摩川低地の間に挟まれた傾斜樹林帯であり、浅間山とならび府中を代表する自然豊かな場所です。河岸段丘は水辺と樹林地の双方の特徴を兼ね備えた自然の宝庫であり、「東京の名湧水57選」にも選定された「西府町湧水」を始め、府中用水や市川用水も流れており、多摩川に生息しているコサギやアオサギなどの鳥たちも崖線に引き寄せられてきます。等々崖線の存在意義について熱く語られました。

今回の講演会には、31名の参加者があり、いずれも府中市の自然に関心を持つ方々で、リピーターの方もおられました。講演会は約2時間半に及ぶ長時間となりましたが、最後まで熱心に耳を傾けておりました。

特に、「梅にウグイス」という言葉がありますが、あれはウソであり、梅の咲く頃はウグイスはまだ「藪」の中で、あまり表には出てこないそうです。梅の花によく止まっているのはメジロであり、ウグイスと同じ緑色をしているので、間違われたのではないかという事を聞き、皆ビックリしていました。



講演会終了後、公園緑地課後藤直樹課長補佐のお話

講演会終了後、講師を囲み懇談会を開催したところ15名の方が参加され、それぞれ感想を述べていただきました。また、参加者にアンケート調査を行ったところ、今回の講演で「崖線の成り立ち、自然としての存在意義がよく分かりました」「府中の地形が多摩川の役割によって成り立っている事、自然も変化しており、また、鳥の生活、生態の話は楽しかった」など様々な感想が寄せられました。(竹内 章)

講演の内容は、府中市を東西約6キロメートルに伸びて存在している府中崖線には、多様な動植物が生息していますが、これまで崖線の近くの神社仏閣などの歴史的な話は良く語られていますが、自然環境についてはあまり話題になる事は少なかったような気がします。

府中の地形は、多摩川の土砂が堆積してつくられた「扇状地」であり、それ以前の昔は「海」であつたらしいです。多摩川は、その流れを多摩全域に広げながら、堆積物を「段丘状」に形成していった、いわゆる「段丘地」です。段丘地とは、古多摩川が運搬した砂礫層によって構成され、その上部には火山灰が堆積してできた関東ロームが重なってできた台地のことです。

浅間山も古多摩川の堆積物によって形成された里山で、地層面も多摩丘陵と同様であり、植物や樹木なども同種のものが多いです。

◎会場を飾る
動植物等のパネル展示



2017 田んぼの学校

開校式・バケツ稲

5月28日(日)うす曇りのなか「第12回田んぼの学校2017」「開校式・バケツ稲」が開催されました。今年も第2回生き物探し、第3回イネ刈り・ハサかけ、第4回脱こく・モミすり、第5回収穫祭の計5回を予定しています。

ただ、今年の田んぼの学校は例年と違って、水田皮膚炎予防対策として、田植え、草取り、水中での生き物探しなど水中作業を断念したプログラムで実行することにしました。

今年は80名の応募があり、45名の受講者を決定しましたが、3名のキャンセルがあり、42名での開校となりました。応募者には、突然のプログラム変更で迷惑をかけたこととお詫びします。

当日は出席者40名、欠席者2名、保護者44名、農工大学先生1名、農工大学耕地の会8名、市役所2名、市民の会16名の総勢111名が参加しました。

うす曇りの好天にも恵まれ生徒の出足は順調で予定の開始時間9時に開校できました。梅沢理事長の挨拶に始まり、環境政策課前島課長、農工大学大川先生の挨拶が続き、稲の一生、田起こし、代かき、田植え、稲刈り、脱こく、モミすり、精米等を説明した後は恒例のピョピヨさん体操です。



田んぼの学校の職



生徒数人が田んぼのぬかるみ体験

さらに、芽だしをした種もみを使って育苗箱に種もみをまく種まき体験をしました。種まき体験は田んぼの学校として初めての企画で、生徒にとっては田植えがないので手先を動かす唯一の作業になります。

田んぼの生きもの説明ではモンシロチョウを呼ぶ紙のチョウ、チョウ飛行機、景色を追いかけるアメンボの話などに子ども達の目が輝きます。

バケツ稲の説明、バケツ稲用土、苗、肥料を配布、今回のプログラムを説明して開校日のプログラムが終了しました。田植えのない開校日は予定より早く11時前に解散になりました。(柿本正夫)



アメンボなどの田んぼの生き物の説明



ピョピヨさん体操

農工大学の若い学生の音頭で生徒、保護者が大きな声をあげ体をほぐします。学生に続いて、生徒が前に出て、「ピョピヨさん……」。そして、お子さんに背中を押されてお母さんが前面に出るほほえましい姿もありました。

田植えにかかわる企画としては代かき前後、田植え後の田んぼ見学、スタッフによる補植作業の見学です。長靴を履いてきた生徒数人には特別に田んぼのぬかるみの感触を味わってもらいます。田んぼから長靴が抜けなくなり苦労する一幕もありました。

水中作業を断念した経緯について

昨年、農工大学学生20数名が本町農場での苗の移植作業後に10名に発疹症状が表れ、原因調査段階で水田皮膚炎が疑われた。

水田皮膚炎は1990年頃、日本各地、特に水田従事者で事例報告、研究が進み、鳥類住血吸虫セルカリアがカモからヒメモノアラガイに中間宿主として寄生し、その後、水中に遊出し人の皮膚からアタックすることが解明された。その治療方法も進んでいるようである。

農工大の先生からは代かきから移植までの日数経過も原因の一つと考えられるが、水田皮膚炎予防対策として①代かきから田植えまでの期間短縮、②ゴム長靴、ゴム手袋着用など、万全の対策を図るようご指導をいただいた。

しかし、かんきょう市民の会の一存で事を進めることができず、事業委託元である府中市にも話をあげ、環境政策課とも相談のうえ、今年の田んぼの学校は水中作業(田植え、草取り、水中での生き物探し)を除いたプログラムで実施することになった。

来年度、今年と同じプログラムで継続するか否か、対策をとって水中作業を復活できるかは今後の課題である。

シティ・プロモーション
ワークショップ報告

府中の魅力 みんなで再発見

シティ・プロモーションって、何？



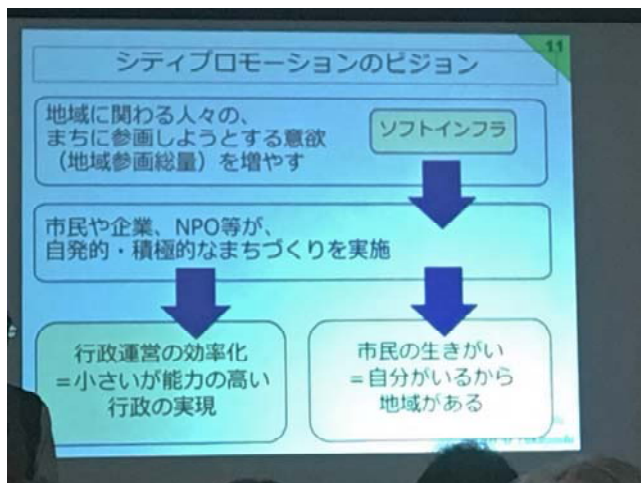
講師の河井孝仁(かわいたかよし)東海大学教授

みなさんは、「シティ・プロモーション」という考え方を、ご存知でしょうか。

これは、自分たちの住むまちの魅力を、住民自らが磨き上げ発信することを通じて、まちに愛着を持つ人を広げていく手法のことで、最近では取り組む自治体も増えています。しかし内実は、残念ながら単なるPR事業に留まっているケースが少なくありません。

そこで、まちづくりに参加する市民が増えていく、そんな実りあるシティ・プロモーションを考えてみよう、市民有志が「府中好きを増やす会」を立ち上げて、さる4月15日に、ルミエール府中でワークショップ「府中の魅力 見つけて・集めて 発信しよう」を開催しました。

府中の魅力は 人を幸せにできる



まちへの参加を増やすのが、シティプロモーションのポイント

当日は、市の内外から約30人の参加者がありましたが、この人たちにはあらかじめ宿題が出されていました。それはヒト・モノ・コト・トコロ(場所)・レキシ(歴史)の5分野についての最低1つ、合計で20の「府中の魅力」を考えておくことです。

シティ・プロモーションの第一人者である河井孝仁・東海大教授からたいへん刺激的な講演をいただいたあとに行わ

われたワークショップでは、まず参加者が4~5人一組の班に分かれ、持ち寄られた府中の魅力でどのように人を幸せにできるか、班ごとに話し合いました。

具体的には、参加者の履歴を参考にしたり、模造紙に貼り出した府中の魅力からイメージを膨らませたりして、まず3人分のプロフィールを決めます。そして、府中の魅力をつなぎ合わせて、どんな困難がどう解消されていくか、3人にあてはめてストーリーを3通り紡ぎ出していきます。

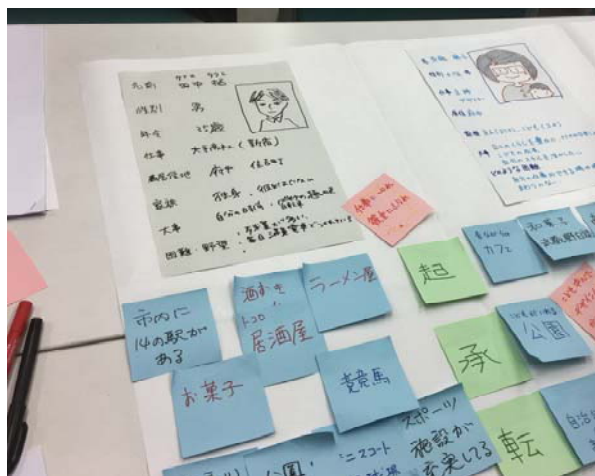


班ごとに「府中の魅力で人を幸せにする物語」を議論

これは、他の人にわかりやすく、実感しやすいまちの魅力を打ち出すことがシティ・プロモーションに大切な点であることを参加者に気づいてもらおうというプログラムなのですが、多くの方にはかつて経験したことのない議論の仕方だったようで、みなさん戸惑われた様子。しかし、やっていくうちに作業にノッてきて、各班それぞれユニークな「府中の魅力が人を幸せにした」物語をつくられていました。

事務局のお願いしたアンケートには、「面白かった」「参加してよかった」との声が多く寄せられたのですが、今回のワークショップを一過性の試みとせず、府中のまちづくりに関心を持ち参加する人を増やすために市民レベルで何ができるか、次への課題も残りました。

今後の展開をどうするか、主催者のなかで思案しているところです。
(西宮幸一)



「人を幸せにする物語」完成

府中
かんきょう市民の会

平成29年度総会を開催

2017年4月12日(水)片町文化センターにて、「府中かんきょう市民の会」(以下当会と表記)の総会を開催しました。

当会の会報は2001年秋創刊で、ホームページでも全頁閲覧できますが、総会の報告は2002年03年04年06年の4年間は記事がありますが、最近の10年以上会報では記事にしてきませんでした。

当会はNPO法人ですから、総会は毎年開催していますが会報は季刊ですので、田んぼの学校など会報でお伝えしたい事業も多く、紙面が足りない状況もあったのかもしれませんが。

総会の承認内容

通常年度と同様に審査承認された議案は、過年度の活動報告、決算報告、監査報告、当年度の活動計画、予算計画、各事業の会員の担当で、いずれも提案・審議の後、総会で承認されました。

今年度は非改選期のため役員選出は議題になく、定款の見直しを行ないました。

承認された平成28年度の決算内容は図1(収入)、図2(支出)のとおりです。

当会の場合、活動のほとんどが、無償ボランティアによるもので、金額の多寡は各種の器材・消耗品の費用のため、活動の大きさや効果をそのまま表す訳ではありません。

また、NPO法人ですから、利益を出すことは目的としていませんから、収入と支出の差額は利益ではなく収支差額として表現し、利益として外部流出させることはありません。

収入決算

昨年度の収入の中でおもなものは、会費収入、事業収入(参加費など、助成金、事業受託収入)でした。

会費収入は会員のみなさまからいただく会費で、個人正会員は2,000円/年です。

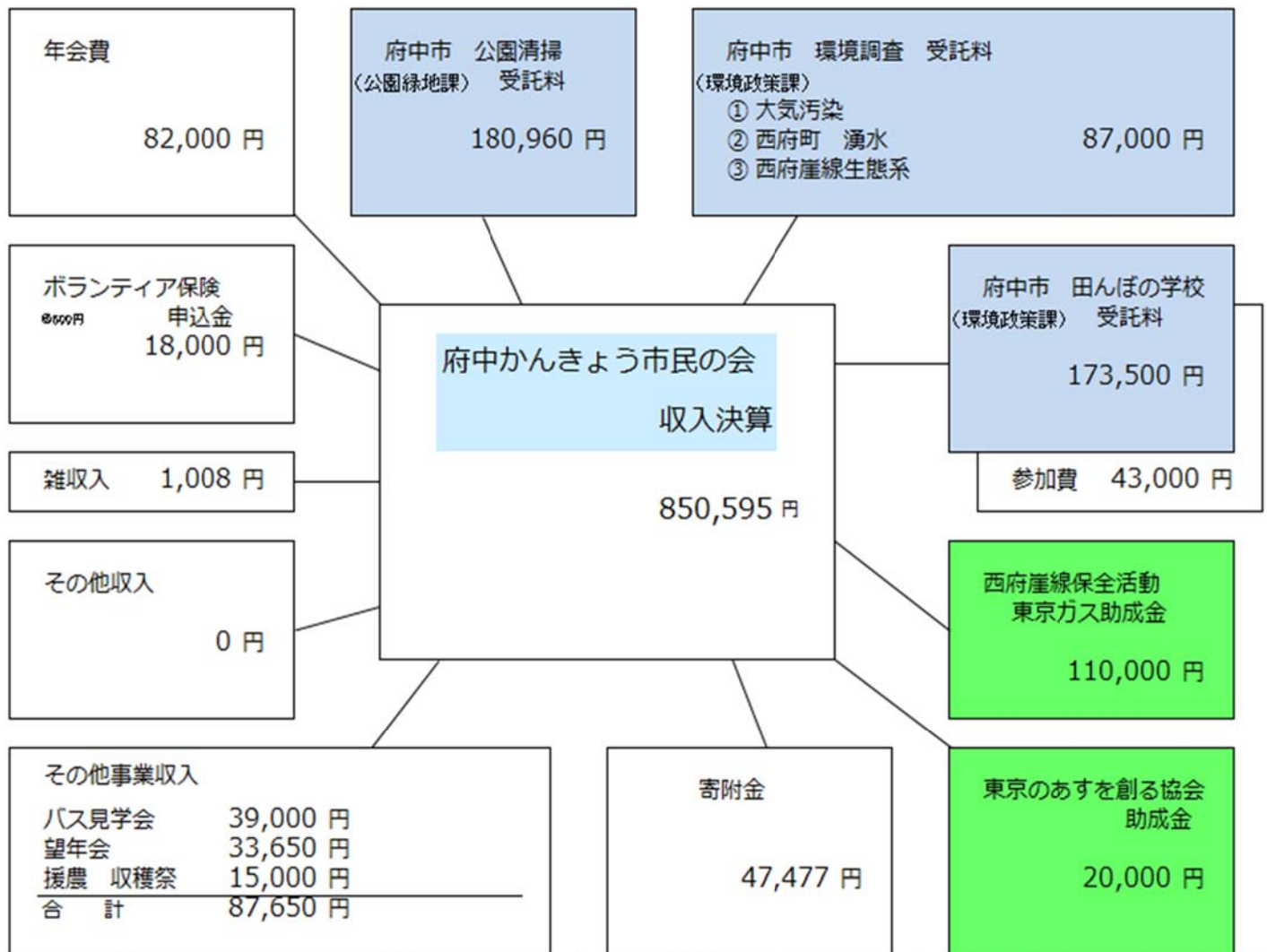
その他事業収入は、バス見学会などの参加費などがおもで、概ね支出額とバランスがとれています。

助成金収入は、外部団体からの当会事業への活動助成金で、当会が受けている助成金は、返済義務のない助成で、当会の活動目的全体に対する助成と、西府崖線保全のための事業への外部からの助成です。

受託収入は、公園清掃や、環境ボランティア調査(大気NO₂調査、西府湧水調査、西府崖線生態系多様性調査、田んぼの学校)での収入です。

図1) 平成28年度 収入決算

■ : 受託料 ■ : 助成金



支出決算

経常支出は、消耗品費や一般的な印刷費などの管理費と、環境ボランティア調査や西府崖線保全活動など概ね事業収入に応じた事業費支出です。

助成金と、受託事業に伴うお金は、助成金を支出する団体や、事業を委託している府中市に対して、契約通りに活動し、お金も使っていることを、別途、毎年報告しています。

活動実績

年間活動スケジュールは、当会では活動の範囲が多岐にわたることもあり、毎週、月次または年4回(シーズン毎)の活動を一表で表記することは、かえって時期の特定がむづかしいこともあり、総会では事業ごとに月1回、または年4回などの表現で報告しています。

さらに、行なった事業については、月次の事務局会議・定例会で報告され、年に1回HPでも報告しています。

今年度の総会の特徴

通常年度は前年度の事業報告、決算報告の承認、当年度の事業計画、予算計画の承認が主で、それぞれの事業の担当もあわせて発表し、承認を受けています。

今年度の総会は、2年任期の役員の改選もなく、通常の年度でした。

しかし、NPO法人の認証を受けた2005年以降、主たる事務所の住所変更以外定款変更を行なつてこなかった当会の定款の見直し・変更を行ないました。

当初は、5月末までだった役員の任期を、4月中旬の総会に合わせることで、当会の活動目的を実態に応じて変更する点など、ほんの数カ所の変更の予定でしたが、この10年以上の間に数回、法令の変更があり、法令変更に応じた当会の見直しを行なつてこなかったため、定款の全条文58条中24条で変更が発生しました。

活動20周年にむけて

今年度は満18年の総会でした。

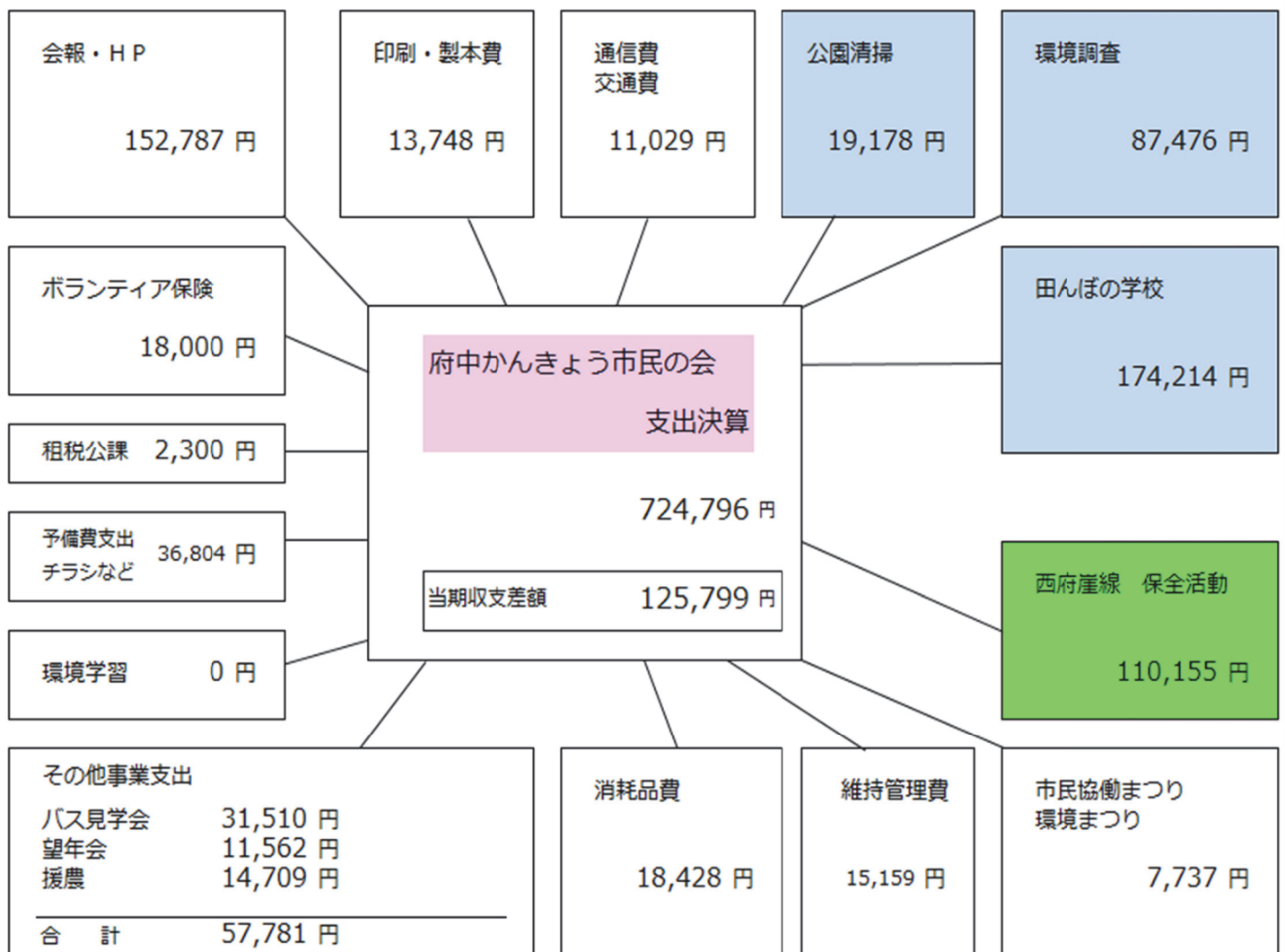
人間は満20歳で成人ですが、当会も2年後の20周年に向けて活動を続けていきたい、と考えています。

ただし、会員は当然私も含めて高齢化しています。

2年後の総会では20周年を祝えるように、ご家族や、本人の健康にも留意しながら続けていきたいと考えています。

(事務局長／小西信生)

(図 2) 平成28年度 **支出決算** 収入に対応した事業 ■ : 受託料 ■ : 助成金



参加・体験・感動！ふれあいこどもまつり

「参加・体験・感動！ふれあいこどもまつり」の目的は3つ



府中子ども劇場が主催する「参加・体験・感動！ふれあいこどもまつり」が3月5日(日)にルミエールで行われました。

当日は、人形劇団ひばぽたあむの「かえるくん かえるくん」、劇団風の子の「風の子バザール」を、多くの親子がお腹を抱えて笑ったり、時には、ちょっとシニリしたりして鑑賞していました。特に、午後の「風の子バザール」は来場者

- ①子どもが育つには、遊びが大切であり、生の舞台芸術体験は心の栄養になります。
- ②大人の役割は、子どもたちに遊びや文化活動を通して健やかに育つ豊かな時間を保障する事です。
- ③子どもたちに豊かな体験が必要と共感する大人同士がネットワークを作り、広げていくことです。

今回で4回目を迎えますが、今まで受けていた都の助成が終了し、今年からは実行委員会で資金集めを行わなければなりません。

実行委員会のメンバーは当会のほかに、保育園、府中市美術館、ひまわり幼稚園、京王エージェンシー、環境塾ネット、けん玉教室子ども会、劇団「風の子」、人形劇団「ひばぽたあむ」、府中子ども劇場等々多彩です。皆でいろいろなアイデアを出し合い、知恵を絞りました。

幸いにも、府中市市民提案型協働事業助成金が受けられたので、不足分は、市内の企業回りをを行い、バナー広告付の一口1000円の協賛金を募ったりして集めました。

「ふれあいこどもまつり」のパンフ

があふれ、椅子を増やしたほどでした。これを鑑賞した高野市長は、帰り際に「これだけ子どもたちを集中させるプロの演技はさすがだ」と言われたそうです。

ビッグホーンミュージックの「音の源 しぜんの音」ワークショップでは、参加者も楽器で合奏して、おおいに楽しみました。楽器といっても、小鳥のさえずりに聴こえるバードコールや、70センチぐらいの塩ビのホースを頭上で回すのです。このホースは、速く回すと高い音、速度を落とすと低い音が出ます。

私も参加しましたが、テープの音楽に合わせて合奏していると、参加者の中に一体感が生まれ、とても不思議な気分になりました。エントランスホールでは、オープニングや屋前に出演団体のパフォーマンスが行われ、「ふちゅこま」も登場しました。



実行委員全員集合

「無料で遊べるわくわく広場」に参加

演劇の上演などとともに、実施した無料で遊べる「わくわく広場」では、葉っぱプリント、ジャグリング、けん玉、などが体験でき、「とんとん広場」では、クラフト帽子づくり、「絵本の広場」は絵本読み聞かせや、おはなし会があり、ロビーではバルーン体験や絵本の交換会など、大変な人気でした。

当会はここで、「折り紙工作」「バツタ作り」「蝶ヒコーキ」「アメンボ作り」などを行いながら、活動のPRをして、このコーナーだけで200名以上の親子の参加がありました。特に「西府崖線保全」と「田んぼの学校」は



「バツタ作り」の親子

DVDの映写や、鳥や植物の写真の展示がよかったせいか、若い親子連れが興味深そうに話を聞いて下さいました。

事前の宣伝は何のため？

事前の宣伝は、美術館やフォーリスを含めて市内11か所で実施され、およそ1560名の親子に楽しんでいただきました。

嬉しい事に、幸町親交会の有志が資金を集めて、町内で自前のお囃子と人形劇団とのコラボで事前宣伝をやってくださいました。実行委員会で、以前、事前宣伝の集客効果に疑問が出された時に、出演団体の方が「集客だけが目的ではありません。何らかの事情で当日来られない子どもたちが、プロの演技に触れる機会を作っているのです」と言われた言葉が今も耳に残っています。

第4回「参加・体験・感動！ふれあいこどもまつり」の来場者は2065名。ファンがどんどん増えています。来年2018年は、3月18日(日)開催です。楽しい事が盛りだくさん。皆さん、ぜひお出で下さい。

(梅沢みどり)

持続可能な
社会に向けて

エコプロ 2016レポート

前編

CNFの用途と潜在市場(3~7年後 千トン)

18回目となる今回から、「地球温暖化対策」「クリーンエネルギーとスマート社会」を2大テーマにあげ、「エコプロダクツ」から「エコプロ〜環境と未来像展」へと進化。日本経済新聞等の主催により、705社・団体が出展し、我が国最大の「エコプロ2016」が2016年12月8日~10日東京ビッグサイトで開催され、167,093人(主催者発表)が来場した。

包装、コーティング	5,278
プラスチック包装の置換	4,153
セメント	4,130
自動車車体	3,573
プラスチックフィルムの置換	3,366
衛生、吸収製品	3,241
衣料用繊維	2,543
その他	7,542
合計	33,826

1.二酸化炭素の排出削減

1-1セルロースナノファイバー(以下CNF)

樹木は、その7割が繊維であるセルロース類で構成され、CNFはこの繊維を幅4~100ナノメートル(1nm=1/10⁹m)まで極細にほぐすので繊維同士が網目状に多く結合できるため、鉄の1/5の軽さで5倍以上の強度がある最先端のバイオマス素材である。植物繊維由来であることから、太陽と水と炭酸ガスがあれば無限に再生される植物資源を原料とする“グリーンケミストリー”として注目される。CNFの特徴は、

- (1) 軽くて強い
- (2) 熱変形が小さい(ガラスの50分の1)⇒繊維が樹脂に絡まって、収縮を抑える
- (3) 植物由来で持続型資源、環境への負荷が小さい
- (4) 酸素などのガスバリア性が高い

	CNF	PAN系炭素繊維
密度(g/cm ³)	1.6	1.82
引張弾性率(GPa)*1	140	230
引張強度(GPa)	3	3.5
価格(円/kg)	400	3,000

註※1 GPa…従来の表示は kgf/cm², G=10⁹(ギガ), Pa=1N/m² (1m²面積に1Nの力が作用する圧力) or 応力(パスカル)

新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)では、'15年度から5か年のプロジェクトを組んでCNFの研究開発を推進中で日本は世界でリード※2している。日本とフィンランドやスウェーデンを中心として推進されている。

註※2 森林・木材科学分野のノーベル賞である「マルクス・バーレンベリ賞」をCNFの開発をしたことにより'15年に東大教授磯貝明氏等が受賞。

CNFをポリプロピレン(以下PP)、ポリエチレン(以下PE)などの合成樹脂に10~15%混ぜ合わせることで強度を3~4倍に高め、熱による変形を大幅に抑えられるメリットがある。例えば1トンの車に使われている合成樹脂部材をCNFで強化された合成樹脂で製造すると、約20kgの軽量化が実現するとしている。

まず、原料の紙パルプの段階で疎水化処理を行い、混練機によってナノレベルまで解きほぐす。これをPP、PEなどの合成樹脂と混ぜ合わせて射出成型すれば、軽くて強靱なプラスチック製品ができあがる。原料として、放置竹林の被害が深刻化している竹材を原料としPP、PEなどとの混合によるCNFが確立された。

※3 TAPPI JOURNAL VOL.13 No.6

註※ 3パルプ製紙業界技術協会のパルプと紙の技術情報誌(Technical Association of the Pulp and Paper Industry, Inc)

CNFは炭素繊維複合材料と同様の複合材料※4である。特に自動車の軽量化素材としての潜在需要は、世界レベルで数兆円の市場が控えていると考えられる。このプロジェクトに係る会社は、CNFは紙パルプを出発原料とするため、紙パルプを製造する製紙会社が多い。既に日本製紙、大王製紙、北越紀州製紙、中越パルプ、阿波製紙は開発を表明。中でも、ナノサイズによって可能になる目の細かさを生かした工業用フィルター、廃水処理用フィルターの実用化は早そうである。

註※4 複合材、コンポジットともいう。繊維強化プラスチック(繊維+プラスチック)炭素繊維強化炭素複合材料(炭素繊維+炭素)の例がある。

1-2バイオプラスチック

植物が原料であるので、地上のCO₂の増減に影響を与えないカーボンニュートラルのため、燃焼廃棄しても二酸化炭素の収支はゼロとなる。この植物(トウモロコシ・サトウキビ・木材等)から澱粉・糖・セルロース等の成分を取り出してプラスチック原料が製造される。石油由来のプラスチックは、その大半を輸入に頼ってきたが、植物を資源とすることで資源国として大いに期待されるものである。

今回の多くのブースにバイオプラスチックで射出成型または製膜された製品が多く見受けられた。着実に石油由来の原料から持続可能な原料由来に代替えされつつあると実感した。別表は、バイオプラスチックが実際に使用されたものを過去5年遡って新聞・業界紙・各企業のホームページ等から筆者が調べた結果である。

価格については石油由来のPE、PPに比べると前者は1.2~1.7倍、後者は1.1~1.2倍である価格を抑えるために、石油由来同種のプラスチックをブレンドして使うことが多い。

容器包装	レジ袋・緩衝材・乾電池パック・卵パック・食品トレー
日用品	食器・ゴミ袋・水切りネット・文具・玩具・紙おむつ
自動車	内装材(フロアマット・タイヤカバー)
電気・電子製品	DVD・プレーヤー部品・パソコン製品・携帯電話部品
土木建築材	植生ネット・土壌袋セメント等養生シート
農林漁業資材	農業用マルチシート・育苗ポット
繊維製品	衣料品・カーペット

(渡部 敏郎) ※後編は次号

西府崖線／春の清掃活動

春の清掃活動の5月20日(土)は天候にも恵まれて、気持ちがいよ「清掃日びより」となりました。清掃場所は①あずまや一大山道②あずまや一新府中街道③カッパ池のなか④ハケ上の4か所です。

参加者は市民の会12人、一般参加者18人の総勢30人の参加を得て、作業がスムーズに行われ、かつ事故もなく終了したことは皆さまのお陰です。作業時間は10:00～11:30、ゴミ20袋、天候は晴れ。清掃終了後、あずまや前で全員の集合写真を撮り、解散しました。



あずまや前での分別作業

西府崖線／生態系調査(昆虫の部)

清掃活動終了後に高家博成講師のもと「生態系調査(昆虫)」を行いました。時間は11:30～12:30。参加者は7人。主にハケ下の調査を行い、講師から「花の物語」をいろいろと聞きました。後日に伺った話も含めて、詳細は以下です。

1. 花の模様

花にはたいてい模様があります。模様は蜜のある印です。古くから学者が調べていて、模様のある花のモデルとないモデルの比較実験で、どちらにチョウやガはくちばしを伸ばしたか、という実験をしたところ、模様のある方にくちばしをつけたということが唾液痕から判明したという研究です。

なるほど、そういえばツツジの花のてんてんがある花びらの根元の溝に蜜があるのがわかります。これは、花を一つとって確かめてください。花の模様や色は虫たちに蜜のありかを教えるためのようです。

2. 花の花粉を虫に託す仕掛け

今、シランの花が盛りですね。シランの筒のような真ん中の花弁に虫(ハチ)が入っていき、出る時に必ず背に当たる部分にオシベの塊がくっつく仕掛けです。次に別のシランに潜り込むと今度は出るとき、その花粉が必ずメシベにつく仕掛けです。

次にエビネランの花はハチが花をのぞき込むと必ずおでこに花粉の塊がつく仕掛けです。花粉をつけたハチはかんざしをつけたようです。このかんざしは、次のエビネを訪れると、必ずメシベにつく仕掛けです。

ランの花はこのほかにも驚くような仕掛けを持ったものが多く、ダーウインを驚かせたようです。

3. 花屋さんのさまざまな色模様の不思議

私は花屋さんの彩り豊かな花々を見ていると、どんな虫がやってくるのか、知りたくなります。

その花を原野に置いて、虫さんに聞きたいです。どうしてその花にきたの? と尋ねてみたいです。



高家講師は中央の奥

なお、5月20日(土)に確認できた昆虫はつぎの通りです。クロアゲハ、コムスジ、アカボシゴマダラ、ドクガ(幼虫)、ナミテントウムシ(幼虫)、オカダンゴムシ、アジサイハバチ、コアシナガバチ、クマバチ、クサグモ、オオカマキリ、ヤケヤスデ、コガタルリハムシ(幼虫)、シロバンバ(アブラムシの一種。幼虫)、ウリハムシ(ハムシの成虫) 以上15種

(3記事のレポートは葛西利武)

第14回 身近な水環境の全国一斉調査

実施年月日／2017年6月4日(日) 午前8:30～10:30 晴
協力者／浅田 小西 柿本 佐藤 五十嵐(リーダー)
調査場所／多摩川(府中市管内6ヵ所、2組に分れ実施)

下表は、府中かんきょう市民の会の調査結果です。「身近な水環境の全国一斉調査」は、朝日新聞(2017.5.30)にも掲載されました。記事によりますと、日野市在住の小倉紀雄さん(東京農工大名誉教授)らが2004年に始め、今年で累計参加者が10万人に達する見込みとあります。ちなみに、小倉さんは、当会(府中かんきょう市民の会)の顧問です。

下表にあるCOD(化学的酸素要求量)とは、有機物による水質汚濁を示す代表的な指標として使用されています。

実行委員会から支給されたパックテストによる測定範囲は0～8以上mg/Lであり、数字が小さいほど水質はよいのです。調査地点1と5の水再生センターより、多摩川に放流された後のCOD値は高くなっています。

調査地点2の東電鉄塔南では、釣り人が6～7人いました。多摩川では6月1日から鮎釣りが解禁になったそうです。釣れる時は1日50匹前後釣れると話していました。

調査地点	時間	気温	水温	COD1	COD2	COD3
1 一号水再生センターと多摩川の合流	8:32	22.4℃	23.6℃	8以上	8以上	8以上
2 東電鉄塔南	9:08	24.5	21.6	6	6	6
3 大丸堰	9:58	23.9	21.5	6	6	6
4 関戸橋	9:40	19.5	20.0	5	5	5
5 二号水再生センターと多摩川の合流	9:10	22.0	25.0	8以上	8以上	8以上
6 府中リサイクルプラザ南	8:45	22.0	20.0	7	7	7